

1. 実況上の着目点

① 500hPa 5280m以下の寒冷渦に対応してオホーツク海～千島近海に低気圧が連なる。850hPaで-6℃以下の寒気が北日本に移流、北日本の山地では3時間に10cmの降雪を観測。

② 500hPa 5580m付近のトラフに対応して日本の東を北東進する低気圧から、前線が日本の南～南西諸島～華南にのびる。前線に向かう下層暖湿気の影響で、華南～日本の南で雷を検知、強い雨を解析。

③ ①や②の低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなり、北日本では強い風や非常に強い風が吹き、波が高くなりしけている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 15日にかけて、1項①の寒冷渦と対応する低気圧は千島の東へ進み、寒冷渦を回る500hPa 5400m付近のトラフが断続的に北日本を通過する。また、850hPaで-6～12℃以下の寒気が北日本に移流。

② 1項②の前線は、14日は、華中～南西諸島～日本の南に停滞、夜までに前線上の華中にキンクが顕在化。15日は、前線上のキンクが東シナ海に進み、朝までに低気圧が発生して東北東に進む。16日は、前線を伴った低気圧が発達しながら西～東日本太平洋側を東北東進して、三陸沖に進む。

③ 北日本では15日にかけて、2項①のトラフや下層寒気の影響で降雪が強まる所がある。また、気圧の傾きが大きくなり、強い風や非常に強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。大雪による交通障害、着雪、なだれ、強風や風雪、高波に注意し、特に14日は暴風に警戒。

④ 2項②の前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島では16日にかけて、西日本太平洋側では15～16日は、東日本太平洋側では16日は、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。また、気圧の傾きが大きくなり強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。低い土地の浸水、河川の増水、土砂災害に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風、強風や高波に注意。

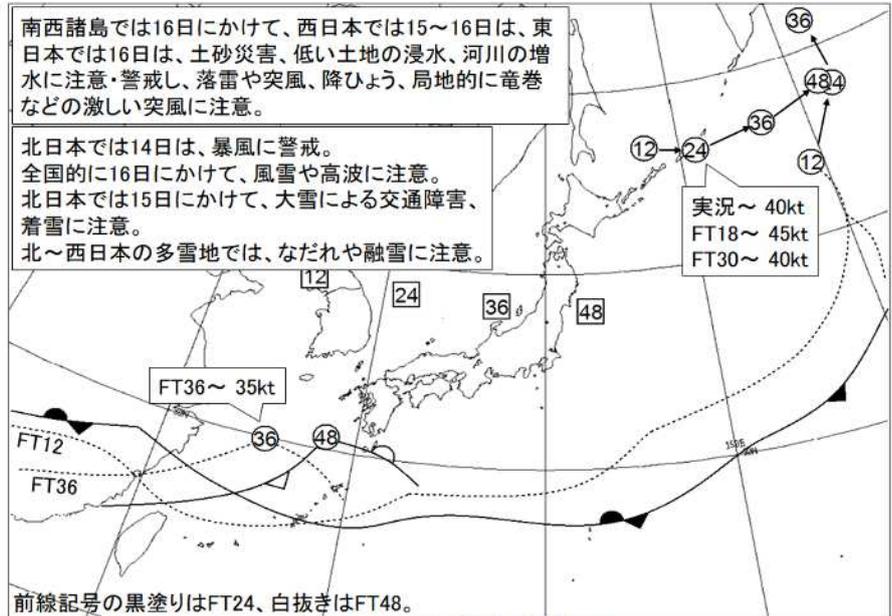
⑤ 2項②の前線や低気圧の影響で、西～東日本は16日にかけて、北日本も16日は、850hPaで平年差+5℃の暖気が流れ込み、2項④の降水の影響も加わり雪解けが進む。多雪地では、融雪やなだれに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：北海道40cm。③ 波浪(明日まで)：北海道5、東北・九州北部・九州南部4、その他広い範囲で3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図